

自立と共生！

たくましい日本！

No. 183号

民主党 中川正春の

永田町かわら版

2003年2月3日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

<http://www.MASAHARU.GR.JP>

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

E-mail g03063@shugiin.go.jp

○小泉さんの誤魔化しは通じ ない。国会の危機感つ る。

国会の論戦が始まっています。先週は、補正予算が採択されました。総額、3.6兆円。環境や、福祉、先端技術と、今の時代に必要だといわれる分野に、予算項目の大義名分を作ってはいる。しかし、中の具体的な使い道を詳しく調べてみると、福祉に名を借りた箱モノであったり、ただの道路補修や実績の上がらない特殊法人の研究センターへのお手盛りであったりと、従来型無駄使いのオンパレードであることが、委員会論議でハッキリしました。

小泉さんの本質がだんだん分かってきました。短い言葉で語ることは、時代の本質をついていたり、人の情に訴えることが確かにある。しかし、具体的に出てくる法律と、予算の中味は、従来型。構造改革や行政改革、民営化など、小泉総理の掛け声が、最近では、空しく響くようになってきた事が、そのことをハッキリと証明しています。

月曜日から、来年度本予算の論議に入ります。私達、民主党の具体論をまとめました。特に、身近な市町村や県に対して、補助金を一括交付して、使い道を自らの優先順位で決めることができる思い切った地方分権の組み換え動議を出します。

地方の元気から国の再生を始める。このことです。

月曜日には、大阪の地方議員の勉強会で政策論議をしました。なるほど、関西も危機感を持って燃えています。

○北朝鮮国境地帯に行く

(その4)

延吉は、とてつもなく寒い割には、雪がありません。土くれだった山や野を、まだら模様になっすらと雪化粧、と言うところですよ。

延辺大学の朝鮮族研究所では、日曜日に時間を割いてくれた西門先生が研究員と一緒に待っていてくれました。延辺州では、人口の40%が朝鮮族だということ。先生や、ここに同行した州の役人も皆朝鮮族。北朝鮮に、様々な形で、親戚や友人が居るといいます。

北朝鮮から逃げてくる人たちの「難民キャンプ」を作れば、現在の不安定な状況の解決になると提案しました。

「1996年から98年頃にかけて、北朝鮮に深刻な飢饉が起こり、餓死者が全体で100万人以上に達したと言われた時は、この延吉にも沢山の人が食料を求めて流れてきた。中国側の私達は、1960年代の文化大革命当時、今とは逆で、中国が大変な飢饉に見舞われ、豆満江を渡って北朝鮮に食料を求めた。今、北朝鮮から来る人たちを、延吉の住民は、あの時の恩返しだと思って、助けているのだ。だから、特別のキャンプは必要ない。現在でも、5万人ほどの不法入国があると思う。」と、北京政府の公式見解を主張。

中国は、文化大革命当時の異常な政治状況を4人組の追放で内部から民主化し、現在の開かれた国家となった。北朝鮮の金正日体制は、文革当時の中国みたいに思うが、先生は金正日体制をど

○女性議員へのチャレンジ

野林えり子さんの市会議員立候補を励ます会に出席しました。私の中学時代の同級生です。

「私が、今回市議会にチャレンジしようと決心した時、家族は、誰一人反対しませんでした。それどころか、皆、協力してくれます。特に、主人などは、私以上にガンバっています。」

となりにご主人の照れくさそうな顔。女性が政治にどんどんチャレンジして欲しいと思います。そして、その時、男が、この野林さんのご主人のように一緒に目を輝かせる時代が来れば、日本は、本物になれるのかなあと、今日は、とても嬉しく感じました。

のように評価するか、と訊ねてみました。

「現在の北朝鮮の体制に問題がないとは、思っていない。しかし、中国の文革は、国内に敵対分子があつて、闘った。一方、現在の北朝鮮は、それが無い。金正日体制は、強いものだと思うし、これからも、この体制が持続していくと、見なければならぬ。最近導入された経済政策〔配給制度から市場へ〕も、金正日が国内の改革を本気で考えていく一歩だと思っている。我々は、これを支援することだ。」

大学の研究者という立場でも、金正日体制擁護が徹底している事が分かります。

〔次回へ続く〕

中川正春